

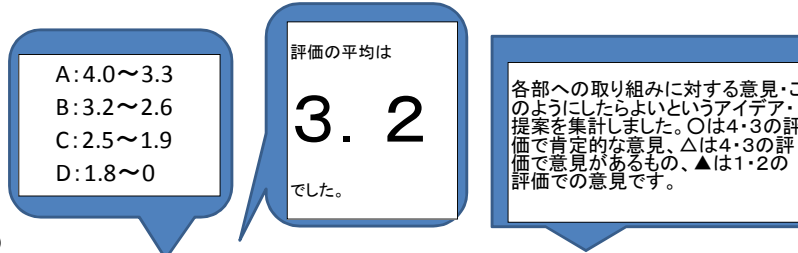
平成28年度 学校評価シート

兵庫県立出石高等学校

【学校教育目標】
「至誠 剛健 敬愛」の校訓に込められた理念を実現するため、家庭・地域と緊密な連携のもと、生徒の個性と能力を最大限に伸ばし、知・徳・体の調和したところ豊かな人間の育成を目指す

本年度の目標 ○学習・部活動・校内行事に積極的に取り組み、充実した活気ある学校づくり
○明朗な精神を育み、「挨拶の励行」「時間の励行」「環境の美化」を柱に規律と礼儀の確立する

領域 (学校長の教育方針)
①学校・家庭・地域が緊密に連携し、地域から認められ地域に根ざした学校として、特色ある教育活動を活発に展開し、活気ある学校づくりに専念する。
②3類型の特色をさらに発展させ、一人ひとりの能力に応じた学力の向上を図るとともに、楽しく学ぶ姿勢を高め、自己実現を目指すキャリア教育の充実と確かな進路実現に努める。
③教育相談の充実を図り、人間的なふれあいと規律を重視する生徒指導を進め、命と人権を大切に教育をとおして、安全で安心な学校環境を整備する。
④学校評価や特色ある教育活動等の周知に向け情報発信を積極的に行い、PTAや学校評議員会等の協力を得て、開かれた学校づくりを推進する。
⑤教職員としての使命感と高い倫理観を持ち、授業力・生徒指導力・人間関係力の向上を柱として、豊かな人間性に基づいた教育実践を共通理解し、教職員の協働体制の確立と組織力を強化する。



評価 4(よく達成できた) 3(まずまず達成できた) 2(あまり達成できなかった) 1(達成できなかった)

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	取り組みの成果	評価	自己評価(取り組みへの意見・アイデア等)	次年度へ向けて改善の方策	学校関係者評価
総務	1	①	地域から認められ、活気ある学校づくりをすすめる。	オープン・ハイスクールを充実させ、アンケート集約で参加して良かったが95%を超えることをめざす。全校集会を複数回設けて、生徒と職員との信頼関係を高める。	参加生徒の98.0%が大変良かった・良かったと回答しており、生徒会による学校説明や全教科実施の2コマ体験授業は中学校教員や保護者からも良好な感想を頂いた。表彰伝達と職員講話を併せた全校集会を2回(4月・10月)実施し、生徒への具体的メッセージを発信した。	A 3.6	○オープンハイスクールは満足度も高く充実した内容だったと考える。来年度も引き続き期待したい。○地域の行事等への参加を通じて信頼を得ていると思う。○オープンスクールは中学生に好評で現在の形式がよいと思います。○よく計画準備され、生徒もよく動いていました。△生徒主体の運営で掲示物等で雰囲気を出していく。△授業は教師ごとに改善工夫を継続的にする必要があるが、学校としての魅力を伝えることがあまりできなかった。△中学3年生の授業は賛成だが中2生対象の授業はなくてもよい。学校の雰囲気・部活など見せるだけで十分なのは、△毎年恒例の行事ではオリジナル性がなくなりつつあり、生徒の積極性、教員の認識もいまいちではないか。△全校集会の内容をもう少し考えていかないと短縮授業にする意味がない。▲学校の特色が生かされた授業展開をすることが望ましいと考える。	オープン・ハイスクールに対する中学生側の満足度はかなり高く、これまでの内容で計画を進めるが、生徒会の参加形態や教師の授業改善など新たな取組みを盛り込む。全校集会は表彰伝達と講話のセットがパターン化しており内容が乏しいので、職員や生徒の意見を反映したものに変わっていく。	・よい取り組みだと思います。引き続き実施していただきたいです。 ・内容がよくわかりませんがリアリティのある避難訓練をしてほしいと思います。 ・教職員の研修は全員が受けておられるのではないかと。防災訓練は現実性を持ってがんばって欲しい。 ・種々行事に参加していただき感謝です(地域のイベント) ・一般社会人と一緒に行動することで、卒業後の進路に役立つのではと思います。 ・町民は常に生徒さんの動きを見ています。 ・来年度からクラス減があるため、オープンスクールや出石高校の事を良く知って頂く機会が多いほど良いと思います。そんな意味ではイギリスへの語学研修は再開できたことがPRとしても、生徒の体験としても意味があったと感じました。
	2	③	安全で安心な学校環境を構築する。	防災マニュアルの改訂(仮設校舎バージョン含む)に取組み、これを活用した防災・避難訓練を実施する。学期末の大掃除や月末の安全点検を行い、環境の美化と学校安全を図る。	7/19、仮設校舎バージョンマニュアルに従って避難訓練の予行を実施。11/18には地域住民15名の参加を得て防災・避難訓練を実施し、災害に強い地域づくりの構築に取組んだ。環境の美化と学校安全を図るため、学期末の大掃除や安全点検を行ってあり、また諸設備の保守と充実を図るため事務室との連携を密にしている。	B 3.1	○防災訓練も地域と連携した意義あるものだったと思う。○仮設校舎での避難訓練を実施することができた。△避難所として機能するかどうかシミュレーションを行う必要がある。△より現実的に即した防災避難訓練があってもよいのではないかと。△3年HR、選択教室を一人の教師で見るのは限界がある。▲職員へのマニュアルの徹底がなされていなかったように思った。	地域住民と連携した防災訓練が定着してきたので、生徒と住民の連携をより深める訓練を計画する。防災訓練は既定のマニュアル通りのものから緊急性・現実性をもつものに改める。	
	3	④	特色ある教育活動等の情報発信を積極的に行う。	ウェブページや学校便りの内容充実し、的確な学校情報を迅速に発信する。PTAや学校評議員会との連携を深める。	ウェブページの適宜更新、学校便りも現在第22号を発行し、迅速な情報発信に取り組んでいる。PTAとは、生徒会との話し合い(7月、1月)、研修旅行、文化祭での家族亭出店、お城祭りバザー等多様な行事の共催、学校評議員会も年3回開催し学校との連携を深めている。	A 3.5	○見やすく充実したHPが広報活動に役立っていると思う。○OPTAや地域との連携がよく取れていたと思われる。○学校便り、出高通信はせっかくなので毎回カラーの大判で印刷して昇降口に掲示するとより見てもらえるのでは。△警報時の連絡にHPを利用してほしい。連絡網で回すのは大変です。△新聞報道をもっと確実に計画的に行ってもらうように努力する。▲ウェブページをもっと増やしたほうが地域へも伝わると思う。	ウェブページや出高通信を活用して学校情報の一層の充実に取り組み。また警報時の連絡を電話連絡網一辺倒からHPへの移行を進めて即効性・確実性を高める。同時に生徒・保護者への継続的な広報と協力をよびかける。	
	4	⑤	教職員としての使命感と高い倫理観を身につける。	生徒指導力や人間関係力を高めるために、各部(各係)で1回以上の研修会を企画・実施する。	年度当初の予定に従い、面接指導(6月、12月)、救急救命法(7月2回)・教育相談(8月、12月)、人権(10月)、生徒指導(12月)、メンタルヘルス(1月)を終了した。今後残りの研修会を実施。	B 3.1	○充実した研修会が行われていたように思う。○研修会では勉強になることがたくさんありました。△出張の報告会を学期に1回設定し、職員間で共有してはどうか。△複数部の研修会を、日程調整が難しいと思いますが、一日にまとめて実施してもよいと思う。▲研修会は全員が必ず参加すべきである。	従来の形態に加え、新たな分野や専門的知識を有する専門家を招いての研修会を計画する。全員参加を推進するため調査期間中を除いた日程設定と一日複数回実施を図る。	

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	取り組みの成果	評価	自己評価(取り組みへの意見・アイデア等)	次年度へ向けて改善の方策	学校関係者評価	
教務	5	⑤	教員の指導力の向上を図る。	「わかる授業」づくりを目指して、今年度は全教職員で研究授業を実施する。	教職員24人中14人が平成29年1月末までに延べ15回の研究授業を実施した。研究授業・研究協議等を活用して、教員の指導力をさらに向上させることにつなげたい。	B	2.8	○目標としては全職員が一度は研究授業を行って質的向上を図っていく。○選択教室にプロジェクターが設置されたので利用した研究授業などテーマを決めて取り組んではどうか。○お互い研鑽のためにも授業を見に行ける週間を増やす。○まだ研究授業をされていない先生がおられるので是非していただいて勉強をさせていただきたいです。○研究授業を行った後の見学者からの評価票があまり出されず、1人1枚は出すということで徹底されたい。○研究授業を実施した際の他教科の先生からのコメント表をまとめたものが欲しい。△研究授業は負担がかりすぎるので、指導案を作らない形式での公開授業に変更すべきである。▲TTウィークやオープンスクールなどの短期間にやってしまうのは時間割が組みにくく見学もしにくい。実施期間に弾力を持たせたほうがよい。▲全職員という呼びかけがある中で、実施人数が少なすぎる。声をかけていただき3月の職員会議で最終的な状況を報告願いたい。▲今後も継続してこの取り組みを続けていくべきだと考える▲普段の授業もお互いに見に行く機会を設けるべき。	教科の指導訪問や初任者・教育実習生の指導など、職員が学習指導案について習熟しておく必要がある。また、職員同士が互いの授業を見学し合い、意見を怠憚なく述べあつて、切磋琢磨しながら指導力を向上させていくことは重要である。したがって、「指導案を作成して研究授業を実施し、それを職員相互で見学し合う」ことは今後も継続する方向で検討したい。また、実施時期に弾力を持たせ、できるだけ全ての研究授業が、実施しやすく見学しやすい工夫したい。参観票の提出については、これまでのように単に「提出を促す」だけでなく、特に若手職員が年配職員に対して厳しい意見を述べにくい雰囲気にならないよう、配慮したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・よい取り組みだと思います。 ・教職員の指導力が一番大切に思います。次年度からクラス減になり、教員のモチベーションが下がらないか心配。教員の指導力が学力向上に結びついていないように思えるのが残念。研究体験発表会は一年度ごとにレベルが上がっています。ただ、少しマンネリ化してきている感じはします。テーマの掘り下げがもっと欲しい。 ・出石高校の特色ある型を考えていただきたい。 ・部活動も非常に大切ですが、出石高校ならではの文化的な事業や行事にも益々力を入れていっていただきたいです。中でも芸術面。書道や陶芸などで成功している地元の方がいらっいますので上手に結びつけていって欲しいです。
	6	②	学習意欲の向上を図る。	(ア)授業評価アンケートにおいて、授業への意欲的な参加を実感する生徒80%以上を目指す。 (イ)授業担当生徒連絡カード、授業における指導補助要請カードの活用を図り、授業の規律確保を各部と連携して行い、成績不振者数前年度比1割以上の減少を目指す。	2学期末の授業評価アンケートでは、授業に意欲的に取り組んでいる生徒は1学期末調査に引き続き92%であった。2学期末評定の成績不振科目の延べ数は、前年の76から44へと減少している。学力を向上させながら、全体の成績不振科目数を減らし、生徒全員が無事進級・卒業できるよう、さらに努力を進めたい。	B	3.0	○生徒は落ち着いて授業に取り組んでいるので、学力の向上につなげる方策を考える○全職員の課題であるが家庭学習時間の確保ができるよう、なげかけ呼びかけ工夫していく必要がある。▲アンケートを受け実際によりよい授業をしていく考えなければならない。▲指導力や生徒の意欲の向上を図る取り組みをさらに生徒の組織的な客観的な学力向上を図る取り組みへとつなげてほしい。▲手帳の活用を指導していくよう、あらためて呼びかける。	授業評価アンケートについては、適切に回答できるよう繰り返し生徒に徹底する。その上で、職員は結果を真摯かつ謙虚に受け止め、生徒の学習意欲を喚起するためにさらに工夫を重ねていくよう、あらためて呼びかける。	
	7	②	図書館活動の充実を図る。	図書館整備を進め、生徒のしやすい環境作りを目指す。また、生徒作成の図書館たよりの発行や図書委員研修会を開き、自主的な読書活動を推進する。	昨年度の書架・図書配置換えから、今年度は図書そのものの更新入れ替えを進め、図書館としての機能を充実させた。生徒作成の図書館たよりの発行を通して順調に発行することができた。また、図書委員研修会を豊岡市立図書館出石分署で行い、読み聞かせの地域活動へつなぐことができた。	A	3.4	○委員会とグループでの活動は活発だが学校全体へもつと働きかける。○図書室に生徒用のコピー機があればと思う。有料で、○図書館たよりの毎回来ぬます。▲図書館利用の呼びかけを増やしたら利用者が増えると思う。▲貸出冊数やクラスごとの統計等、見える数値が欲しい。	委員会活動を通して、図書館利用の推進を図りたい。図書館たよりに、今年度より年度利用統計を載せるようにする。コピー機について、学校図書館内では複製が法律上認められないので、設置はできない。	
	8	④	特色ある教育活動を推進する。	「インスパイア・ハイスクール事業」において外部講師や校外での特別授業を設定し、地域や自分の将来像について生徒に積極的に考えさせ、授業評価アンケートにおいて授業満足度80%以上を目指す。	芸術科目や「文理探究Ⅰ・Ⅱ」などで、外部講師の招聘や校外施設・研究機関訪問等の機会を利用して、地域や自分の将来像について生徒に積極的に考えさせることができた。また、「学校応援寄付金」(豊岡市高校生等地域研究支援補助金)を利用するなどして生徒の負担を軽減しながら、充実した活動を行うことができた。特に意欲的な取り組み・優れた取り組みについては、その成果を【研究・体験発表会】で発表させ、学校内外に示すことができた。2学期末の授業評価アンケートでは、「文理探究Ⅰ」「文理探究Ⅱ」の授業満足度はいずれも98%であった。	A	3.3	○芸術科目の充実とともにインスパイアハイスクール事業の充実により、本校の特色を発信できたのではないかと。○文理探究の取り組みが授業満足度も高く、充実していた。○研究体験発表会をより活気あるものへ。○非常に充実した取り組みがなされていると思う。▲文理探究コースの存在価値を生徒にしっかり認識させることが大切だと感じる。発表の準備も校外を活用し進めることが地域貢献にもつなげると感じる。▲スライドの内容が前年度とほぼ同じで調べた内容も似たような内容だと感じる。▲文理探究の内容を考える時期に来ていると思います。	教育課程委員会などの場で、インスパイアハイスクール事業の内容について情報共有を頻繁に図り、活動内容を検討するなど、関係職員間で連携して活動できるよう環境を整備したい。	
生徒指導	9	⑤	部活動や学校行事を活性化し、生徒の自主性と、健全な人間形成を支援する。	部活動の日を活用するなど活性化し、運動部も文化部でも昨年の実績を上回る成果を出す。生徒会に働きかけ学校行事や委員会活動を活性化すると共に、総務部アンケートの部活動・学校行事に関する項目の満足度が80%を超える。	部活動の日や部活動集会を実施している。部活動の成績は運動部では全但春季体育大会では男女とも総合4位と成績が向上。文化部においても、陶芸部が全国総合文化祭に出品など成績が向上。前期生徒会は、体育祭の種目や、文化祭のオープニングイベントなど主体的に取り組んだ。後期生徒会は募金活動に取り組んだ。	A	3.3	○クラス減による部員数減少は仕方ない。全員入部を呼びかける。部活動の精選、統合など検討○全但総体4位は過去最高の成績ではないかと、よく頑張っています。○運動部、文化部ともに頑張る姿が見られました。○生徒会がよく機能しているように思います。△部活動の日に未加入の生徒にどこかの部活を見学、応援に行くことを勧める。△文化祭演劇内容チェックが必要。外部の方も見に来られるのにあまりにも品のないものは見せられない。▲評価指標に対する結果が書かれていない。▲部活動の日に会議が重なる。▲部活動の日をもっと職員に周知すべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数減少に伴い、部活動のクラブ精選や統合の検討。 ・部活動の日を職期で全職員連絡して徹底する。 ・生徒会新聞を発行し、日々の部活動の活動報告を載せてクラブの活性化を図る。 ・部活動への生徒全入をかかげ、部活動を活性化させる。 	
	10	③	基本的な生活習慣の確立を目指し、安全で安心して生活の出来る学校環境と意識の向上を目指す。	(ア)年に4回の「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの発生を防ぐ。 (イ)教職間の連携を密にして基本的な生活習慣や規範意識を定着させ、指導数を昨年以下にする。 (ウ)外部講師を招き、安全教育を実施し、携帯電話によるトラブルや、事故の発生を予防する。	(ア)今年度は1学期に2回、2・3学期に各1回の4回実施した。特にいじめとして報告されるものは発生していない。 (イ)機会ある毎に生徒への啓発と、教職員への指導を依頼し生活習慣と規範意識の定着をして、挨拶や職員室の入退室などの言葉遣いの定着に取り組んだ。今後も継続して指導していく。 (ウ)外部講師を招いて携帯電話によるトラブルや、事故の発生を予防する。	B	3.2	○生徒指導通信や指導の報告はありがたい。学年外だと問題として取り上げられた内容もわからないので共有すべきことは職員などで伝えていただけたらありがたい。○いじめに関するアンケートを行うことで、いじめにつながる条件を未然に解消できたのではないかと。○職員室への入退室の言葉遣いが昨年度より改善されてよい取り組みだと思う。○県からは年に3回以上ということなので3回でもよいのでは。△運路が相変わらず多くみられる。あまりではいけないという意識がない生徒がいるので、HR等で進路等に大きく響くということを指導すべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の教師に対する言葉遣いを職員の共通理解のもと指導を徹底していく。 ・遅刻指導を進路指導部と一緒に、進路への悪影響を生徒へ指導、周知させる。 ・登下校の保護者送迎対応の看板設置を検討。 	
	11	③	ふるさと貢献活動事業を活性化し地域に信頼される学校づくりを推進する。	地域行事・ボランティア活動、アンテナショップなどへ全校生徒の70%以上が参加することを旨とし、地域の人に愛されるよう奉仕活動を行うとともに積極的、自主的に地域行事に参加する。	ふるさと貢献活動事業計画に基づいた活動を活発に実施した。そのほかに地域から依頼のあった観光ボランティアや河川の清掃や地域清掃ボランティアなどにも参加している。秋の観光シーズンに向けての清掃ボランティアも約80名と多くの生徒の参加が参加した。	A	3.6	○工夫改善を加えていく。同じエネルギーでより効果的なものへ。○ボランティア活動やアンテナショップについて生徒に新聞を作らせてはどうか。○様々な地域ボランティアに参加し地域貢献することで観光を支えていかなければいけない気持ちを持たせることが必要だと思います。△生徒には単に参加するだけでなくボランティアの意義をもっと理解してほしい。△アンテナショップが継続されていて素晴らしいですが、冬期は寒さが厳しいので休んでもよいのではないですか。△ボランティア参加について今後生徒数・職員数が減少していきますが同じように参加するのは大変になるのではないのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会新聞を発行し、ボランティア活動に参加した生徒の感想や活動報告を載せ、他生徒へのボランティア活動周知とさらなる活動参加を促す。 ・生徒数、職員数減少に伴い、今年以上のボランティアの受け入れは難しい。 	
	12	③	教育相談体制を整えと共に、生徒の心身の健康作りを推進する。	教育相談の校内組織・カウンセラー・医療機関等との連携により、適切な対応を図り、安心安全な学校生活を保障する。 授業に集中して参加するために心身の健康作りを引き続き啓発していく。	教育相談の校内組織・カウンセラーとの連携を行い、教育相談をはじめとして、生徒の状況に応じた適切な対応を行っている。4月には、カウンセラーの先生に講演をしていただき、生徒が教育相談を受けやすい講話をしていただいた。授業参加を最優先に考える生活習慣の指導を行った。	A	3.5	○全職員が生徒の実態をきちんと把握し、共通理解のもと対応に当たっていく。△気軽にカウンセラーに相談できる環境づくりを今以上に充実させる必要がある。△教育相談の件数やカウンセラーの講演などもあったが、あまり利用されていないように聞いたので、さらに充実させていくよと思う。△教員とカウンセラーとの面接機会を設定し、職務のリフレッシュを図る。▲学年の教育担当者筆頭に職員全員がもっとと教育相談の知識を身に付け、実践していく必要がある。特に気になる動きのある生徒のたいして、学年からか養護教諭からかひとこと報告があることと対応に困らないのでありがたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内組織(教育相談・特別支援委員会)で支援体制を共有し、必要時に全職員への共通理解を図る。 ・キャンパスカウンセラーによる相談活動に加え、HRIによる心の健康についての授業を実施する。 ・教員の教育相談への意識向上のため、実践につながる内容の研修を実施する。 	

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	取り組みの成果	評価	自己評価(取り組みへの意見・アイデア等)	次年度へ向けて改善の方策	学校関係者評価	
進路指導	13	②	進路実現に向けた、意欲・学力の向上	とにか「手帳に書く」ということをベースに、年度末のアンケートにおいて、手帳が「役に立っている・ややく役に立っている」と答える生徒が60%を超え、授業満足度に関して「満足・やや満足」と答える生徒が85%を超える。	3年生の就職希望者の面接指導では手帳を利用させ、アドバイスや改善点などを記入させていたが、進学者においては、利用が不十分だと思われる。中には、手帳でスケジュール管理を行い、受験の計画に役立っている生徒もいるが、一部である。今後、さらに意図的に利用する機会を設ける必要がある。課題などで利用できるよう、教科をはじめ、職員の協力を願いたい。7月のアンケートでは、進路指導への満足度が生徒全体では84.5%で、昨年度比5.7%上昇し、保護者においては75.3%で、昨年度比7.4%上昇している。	B	2.7	○生徒は必要だと思えば使う。教員が生徒との意見交換に手帳を用いるなど工夫が必要。○個々に自分に合う手帳を持っている生徒も多いと思います。学習メインの手帳を使いこなすのは難しいと思います。○手帳の記入時間をSHR時に設ける。LHR時に必ず持参させる。△手帳活用はよいことであるが、なかなか定着がなされていない。オリジナルな表紙にするなど工夫できる要素が入るとよいのではないだろうか。△学校の手帳は使わずにという理由で自分で手帳を購入して使用している生徒も複数見かける。何パターンの中から選ぶ、もしくは必要なものが購入する形でもいいのではないかと、手帳を活用すること自体は大切であるが、12年生でどこまで活用できているか使用頻度があるかが疑問である。手帳にかかる費用を他に使ったり、進路などを考えることのできる講演などにも充てるようなことも検討してみたいと思う。▲評価指標に対する結果がない。評価指標を達成するための方策を提示、実行する必要がある。	・毎年4月には生徒や職員に向けて目的を伝えているが、次年度はそれが周知できるよう努めたい。29年度は、少しでも多く計画的に動けるよう、可能な範囲で確定した行事予定をマンサリーの部分に書き込んだ。また、要望のあったおしりひもを2色にし、使い分けられるようにし、表紙もシンプルにして、外でも気兼ねなく活用できるようにした。・生徒アンケートで手帳を活用していた主な内容は、考査の時間割や計画と普段の時間割変更、次に授業準備や提出物の確認などで、活用させる工夫が必要である。今までも面接のアドバイスや講演会のメモとしての活用例はあったが、30年度には、ご指摘いただいたように、SHRやLHR、意見交換など、活用の幅を広げられる提案を考えたい。ウィークリーの部分を細分化せず、何でも書きやすいように余白を取る、薄くして少し大きめにするなど、要望に応じた活用しやすい形式を考えたいが、まずは利用の有無や対象、活用方法について考えることも含めて検討したい。	
	14	④	職員間の情報共有と協働を図る	学年の進路担当者を中心に職員間での情報共有の促進、指導体制を充実させる。また、2月の「研究・体験発表会」が充実したものになるように努め、昨年以上の外部評価(3以上)を得る。	就業体験やガイダンスなどの行事を通して、学年担当者と学年との連絡はほぼできてはいるが、行事などの前後のみ情報交換を行うことが多いと思われる。ただ、今年度は新たに1年生でコミュニケーション能力をあげるガイダンスを取り入れたことで、相談しながら進められているため、例年より密に連絡が取れている。「研究・体験発表会」の来賓アンケートでは、会場が寒かった(2名)、会の進行が普通だった(1名)という意見以外はすべて「大変良かった」と「良かった」と答えていただいている。会場の寒さについては事前にホールに依頼したが、設備上、機替する機械がないため、1階と2階の温度差は埋められないとの返答だったため、次年度は座席も考え、事前に暖かくしていくように知らせたい。現在、職員アンケートを集めている途中である。概ね良かったという意見が多いが、より改善していくことや、発表に工夫をすることなど、アドバイスを今後活かせるようにしていきたい。	B	3.0	○研究発表発表会は大変素晴らしいです。○研究発表発表会は進行がスムーズで良かったです。来年は内容の充実に取り組みしましょう。○研究発表発表会は今年度は一2の修学旅行新聞も投票で評価してもらった機会があり、いろいろな生徒たちの活躍が見てよかったです。△進路指導部が全員不在ということがあり、困ったことがある。△誰がどの学校を受験するかという情報が職員向けに発信されてもよいと思う。△十分な事前準備と計画で職員の意思疎通を図っていくこと。場当たり的なことや余裕のない設定は避ける。▲模試の分析を復活させてほしい。進路のしおりがなくなってきたら若手・新人の先生の進路指導に対するイメージが薄くなってきている。▲来客者に迅速に対応するためにも、進路指導部の部屋常駐体制を確立する必要がある。▲進学先のデータが他の職員に伝わっていない。	・研究・体験発表会では、先生方のご指導により、スムーズに進行できたことに心より感謝申し上げます。昨年長時間に及んだことから、今年度は学年担当の時間枠をまず決めるという例年とは違う形で準備をスタートした。今年度は修学旅行に関しては報告を「沖繩新聞」という形にして掲示し、生徒の投票により、上位1・2位の班の新聞をカラーのままパンフレットの内側に印刷して配布した。今後はさらにスムーズにそしてミスなく進めるように努めたい。 ・来客対応に関しては、授業や出張などにより手薄になることがあるため、お世話になっている3学年の先生方の更なるご協力をお願いしたい。 ・今後は、模試のデータや受験先や受験結果について、共有が図れるよう検討したい。	・良い取り組みだと思います。 ・手帳に書くことの意味が理解されにくいように思える。もっと工夫が必要ではないか。職員間の情報共有は、もっとしっかりやって欲しい。 ・地元に残してくれる生徒さんが増えればと思います。 ・地域も卒業生を受け入れる取り組みが必要だと思う。 ・進学希望の生徒がスムーズにかかることで出石高校の入学を志す中学生は増えると思います。就職希望者には今後も面接指導を強化し、人前で自分の意見を胸を張って発言できるように訓練して欲しい。その際に重点を置いていただきたいのは「面接官の話を聞く」のではなく、あくまで「生徒の対応力」のためにすることなのだ、面接官側の人選をつめていただきたい。
	15	②	キャリア教育に向けた基礎作りを図る	就職希望者がインターンシップを体験することで、多くの生徒の進路実現に向けての職業意識を高める。実施後のアンケートで「良かった・まあ良かった」と答える生徒が80%を超える。	今年度は11月15日(火)～17日(木)までの3日間で実施した。7月上旬の地元企業の方による講話や概要説明、日誌を用いた具体的な内容説明、電話指導などの事前指導を学年と協力して行った。実施後のアンケートによると、多くの生徒がマナーに気を付けながら実施し、「働くことの厳しさ」と「楽しさ」を学び、「学校と社会との違い」を実感したと答えていた。受け入れていただいた事業所のアンケートでは、「良い評価ができる」と「評価できる」が「業務内容の理解・正確さ」では100%、「準備・運搬・協力・コミュニケーション」をはかること、積極性」でも84%から94%の評価を受け、概ね良好であった。	A	3.3	○就業体験の時期は夏休みにできないでしょうか。△事業の前だけでなく進路通信をもっと有効に使える一年生から指導につながるのではないかと。△1年夏休みの職業調べや、2年生の3年担任の先生の話やLHRなどより取り組みがある。不足している部分を、高校生キャリアノートを利用して学期一回進路のHRを持つなど決めた計画に実施してはどうでしょうか。▲22番24番の評価指標がどれくらい達成されているか模試のたびに職員全員で共有するため、ベネッセの他校比較と過年度比較を7月11月1月模試については職員に閲覧する。データはネットワーク上の進路のフォルダに置き自由に閲覧できるようにする。どうすれば模試の実力を伸ばせるかという視点で先輩の先生の研究授業を見てもらい、若い先生方の指導力を養う機会とする。	・就業体験に関して、今年度は生徒自身の報告書の提出もほぼスムーズであったため、全体のまとめとしての冊子も早めに配布が出来た。時期については、3年生就職希望者への指導と重ならない日程で29年度内に夏休みも含めて検討していきたい。夏休みと授業日が確保できることや、希望者のみを対象と出来ること、場合によっては就業体験を未経験の3年生もそこで実施できる可能性がある。 ・模試のデータの閲覧や閲覧に関して、3年生は進路指導部で、1、2年生は学年主体のため、協力を得て閲覧していただけるようにしたい。 ・今年度は進学検討会において、データや科目、配点などの確認を行えるよう、就職担当者も含め全員がパソコンを持参して検討を行った。	
16	②	キャリア教育の充実を図る	就職希望者に対する、校内・校外での面接指導を徹底して行い、自分を知る機会として、個としての成長を図る。面接指導のアンケートにおいて「良かった・まあ良かった」と答える生徒が80%を超える。	就職希望者を対象に、7月上旬から校内外において職員・商工会・PTAによる面接指導を5回行い、1日に2回実施した日もあるため、9月までに個別には平均10数回は面接指導を行い、その後も必要に応じて面接指導を行っている。現在、2名が受験や結果待ちであり、2月6日、1名が不調となり、翌7日にはハローワークに来校いただき、求人票を複数受け取り、担任や本人と連絡を取り、検討中である。全員の進路実現までサポートしていきたい。	B	3.0	OPTAの方々のご協力や先生方の手厚い面接指導は生徒にとって大きな支えになったと思う。○外部の方による面接は生徒にとってたいへん参考になるものだったと思う。今後継続してほしい。○夏の商工会、PTAによる面接終了後に就職を希望した生徒は、その外部の目録での指導が欠けているため、意識が甘いままで受けに行く傾向があるので改善が必要である。○就業体験の業種を増やして希望の体験を実現できれば、就職後の強みになる▲面接以外の指導も学年と密になってやってもらいたい。一般教養や履歴書指導など。▲学年全体、3年間を見通してのキャリア教育の計画が必要である。	・PTAや商工会の方による外部面接は、毎回、生徒一人につき、2回ずつ行っており、実際に面接をされる方もいらっしゃるため、時に厳しくはあるが非常に大きな学びの機会となっている。 ・履歴書指導や一般教養など、もう少し早い時期からある程度定期的に行えれば、模試や受験結果につなげられるため、検討したい。特に履歴書指導においては、学年と連携して行いたい。生徒と担任間での十分な話し合いをベースに確認された後に進路に相談されると、よりスムーズに運べるので、例年通りご協力をお願いしたい。担任、主任、進路、管理職と、下書きの時点で確認、改善をしているので、多くの先生方のご意見を反映させていきたい。		
3学年	17	②	生徒個人に合わせた進路指導を行い、希望の進路実現を達成する。	総合的な学習の時間、個人面談、保護者会、学年集会、放課後補習などで生徒たちの進路に対する意識を高め、進路実現に向けて努力させる。一人でも多く希望の進路を達成できるよう支援する。年度末のアンケートで進路実現に対する満足度80%を目指す。	就職試験は未定だった2名も受験をして、結果待ちである。公務員試験から就職に変わった生徒も結果待ちである。センター試験が終了し、国公立大学受験者は12名であり、後期試験まで支援していきたい。私立、専門学校でも未決定者がいるので面接等最後まで支援していきたい。	B	3.3	○学年で情報を共有し、生徒一人一人に親身になって取り組めた。○進路実現のため学年団一丸となって取り組めていたと感じないか。○生徒一人一人への指導が丁寧だと感じました。○学年と進路で連携をとりながら、進路実現を進めていけたと思われる。○十分な補習を実施していた。▲気になる生徒もいるが学年や担任任せにするのではなく、学校全体で取り組んでいく姿勢が大切。	今年度の受験・就職を終えて次年度に引き継ぎを行いたい。文章などで残して、それを蓄積していくことが大切である。また、本校の独自の分析も必要である。成功している例や失敗している例を原因を考えて次年度に活かさないといけない。本校の進路指導は単年度で終わってしまっているところがあるので、継続することが必要である。	・よい取り組みだと思います。 ・社会に出ていくために必ず必要なことです。厳しく指導して頂きたいと思えます。 ・生活習慣の改善は大変難しいことですが、あきらめずに対応して欲しい。・出石を忘れないで欲しい。苦しいときに「高校生活」が何かのよりどころになれば…… ・体育祭での応援合戦は生徒が声を張り上げての校歌が特に印象に残っています。私の母校ではありませんがグッときました。
	18	①⑤	基本的な生活習慣の確立のため、欠席遅刻を少なくする。掃除の習慣を身につけさせるため指導を行う。	欠席、遅刻指導をなくすために粘り強く指導を行う。全員出席の日を昨年度より増やす。日頃の掃除の指導を徹底する。	最後まで欠席・遅刻がなくならずに残念である。3年間の皆勤12名、精勤1名であり、例年より少ない人数である。特に遅刻は特定の者が1年生から改善できなかった。	B	2.7	○3年生としての成長も見られ卒業を迎えることに喜びを感じる。欠席オーバー、欠点なしは本当に素晴らしいことである。○学年末で出席不良の生徒は皆無、卒業が1回で認定されとても良かった。○欠席回数が法定の1/5を超える生徒が出なかったのは素晴らしい。○毎日立ち番をご苦労様です。▲同じ生徒が繰り返し遅刻・欠席となってしまう残念だった。▲欠席・遅刻者の声かけを特定の教員だけでなく全体で声かけをするのがよいと思う。▲生活習慣の改善にもっと家庭の協力を仰ぐ体制が必要。▲保護者との連携を密に取り、その生徒の生活習慣の改善をはかる。▲進路が決まった後も相変わらず遅刻してきている生徒が多すぎるので厳しく指導すべき。	欠時オーバーがなかったことは収穫である。遅刻・欠席をなくすためには、多い生徒への細かい指導が必要である。中には3年生になって改善された生徒もいた。就職や進学を前に、遅刻や欠席の多い生徒を指導するチャンスを逃さないようにしたい。生徒会と協力して、あいさつ+遅刻をなくそう週間などの運動などを考えていきたい。	
	19	①⑤	高校生活の最終学年として、生徒が充実した生活ができるよう支援する。	行事を通して人間形成をはかる。とくにリーダー性を持った生徒を多く育てる。体育大会、文化祭の満足度を90%以上を目標にする。ボランティア活動にも積極的に参加する。	体育大会、文化祭を通して良好な学年・クラス関係が築けた。ボランティア活動も学期に1回出石町へ清掃ボランティアへ行くことができた。	A	3.4	○補充しなければならぬ生徒がいなくてというところは素晴らしい。○体育大会では頼もしいリーダーシップを発揮してもらったと感じる。○課題に直面しながらも実行委員が中心となって行事を盛り上げてくれたと思う。一部が参加せずという部分も見られたので、全体で協力することの大切さを日々グループワークで養うことが大切と感じた。	現在ある出石高校の行事のよいところはクラスが減ったとしても残して行きたい。体育大会では本当にやりこむのが応援合戦はそこでリーダーとなる生徒がいるので、残して欲しい。	

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	取り組みの成果		評価	自己評価(取り組みへの意見・アイデア等)	次年度へ向けて改善の方策	学校関係者評価
2学年	20	②	進路実現に向けて、授業や家庭学習に取り組む意欲の向上をはかる。	家庭学習や考前学習を充実させ、生徒の平日の家庭学習時間平均2時間を目指す。教務調査における授業満足度85%、意欲的な授業への参加90%以上を目指す。	総務部6月の生活実態調査では、平日の学習時間2時間以上と答えた生徒は1割の1割で、30分未満と答えないを合わせると約67%であった。2/7の調査では平日の平均学習時間は全クラス平均で42分であり、1・2組の多くの生徒は0分と答えていた。学習指導の成果は上がっていない。全教科/学校全体で宿題/課題を日頃から課したり、学習の仕方の指導を行うことが必要である。教務部実施の第1回授業アンケートでは、授業満足度88%、意欲的な授業への参加92%であった。	B	2.8	○家庭学習の習慣がなかなかつかない。○3組の一部の生徒が3年生から刺激を受け勉強を頑張っている。残りの生徒の意識を高めることが必要。○平日の家庭学習時間の確保は学年だけでなく全職員における課題である。学年、教科で具体的な指導を提案していく必要がある。△学習習慣をつけさせるため、学年で宿題を課してもよいのでは。▲課題の出し方、チェックの仕方「やらざるを得ない」と考え家庭で勉強してくるのである。▲1組2組の生徒にどう勉強させるかはカリキュラムを含めて考えないといけない。▲難しい問題にじっくり取り組む姿勢がもっと必要。	学年末調査後、学年で進路実現に向けた問題集の購入と春休み課題の指示を出す予定である。またHRや学年集会にて進路実現に向けた家庭での学習の重要性を説諭する。進路ノート(仮称)を各自に準備させ、進路実現のために調べたことや模試の結果の振り返り、面接での助言などをメモさせていく。	・勉強時間を増やす対策をしないと、結果が出ないのは当然であり、模試分析を出すのは必要ではないか。 ・研究体験発表会 感動しました。時間内にきっちりまとめ、先生も大変だったと思います。 ・高校生になってムードや学問への取り組みにも慣れてくる時期だと思います。ダラダラ過ごさずに2年生のうちから真剣に進路を考える時間を与えて頂きたいです。
	21	①③	修学旅行や文化祭などの行事を通して、雰囲気のないクラス集団をつくりあげる。	修学旅行後、文化祭後、年度末に各行事の満足度やクラスの雰囲気についてのアンケートを実施し、満足度90%以上を目指す。	生徒指導部による生徒対象の文化祭アンケート結果によれば2年生のステージ発表は「とてもよかった」と「よかった」で全体生の99.3%であった。修学旅行後実施した生徒対象のアンケート結果を見ると、各日程の行事のほとんどの項目において高評価であった。比較的よい集団づくりができたと言える。	A	3.6	○各行事で満足度が高く、その後の学校生活により影響を与えていると思う。○行事を通じて生徒の成長を感じた。○行事に対する取り組みがまとまっていて良い。○とても良い学校行事になったと思う。○修学旅行で一層仲が深まりよくなったと思う。○研究体験発表会は1組就業体験 2組修学旅行新聞 3組文理探究と各々特色があり面白い。○アンケート結果により充実した修学旅行であったことがうかがえた。	4月の校外学習、6月の体育大会、9月の文化祭に向けて早めに指導に入るとともに、学習とそれ以外の切り替えをしつかりするように話していく。	・高校生活になってムードや学問への取り組みにも慣れてくる時期だと思います。ダラダラ過ごさずに2年生のうちから真剣に進路を考える時間を与えて頂きたいです。
	22	②	明確な進路目標をもたせ、進路実現に取り組む姿勢や意欲の向上を図る。	進路アセンブリや総合的な学習の時間、文理探究Ⅱなどを活用して進路についての理解を深めさせる。年度末にアンケートをとり、明確な進路目標を持って進級する生徒の割合が90%を超える。模試成績で偏差値50以上の生徒を各教科10人以上を達成する。	進路アセンブリを11/1及び12/20に実施し進路意識を高めた。文理探究Ⅱの学習合宿後に生徒に行ったアンケートでは、合宿全体を通じての感想で「非常によかった!」「まあまあ良かった」を合わせると92.7%であった。7月の進研模試では偏差値50以上が国語で12人、数学で5人、英語で7人、11月の模試では国語8人、数学5人、英語2人であった。これまでは十分な成果が達成できていないといえる。生徒の意識を変え、結果を出す取り組みが必要である。	B	3.0	○進路実現に向け具体的な目標を作らせるのは難しいと思うが、HR等で意欲向上を図った。○3学期に実施した面接練習は効果があったと思います。○偏差値50以上の生徒は10人といわずもっと増やしていきたい。生徒以前にまず職員の意識を変える必要がある。△模試結果をうけて担当者が考えていかなさといけけないが、結果を回覧してほしい。△人文類型を英国社で鑑えるシステムを構築してほしい。▲勉強時間を増やさないと結果は出ないと思う。進路目標を早めに設定させる機会を設ける必要がある。▲模試分析を出してはどうか。▲進路指導のHRを増やすなど、生徒の進路への意識を高めていく。	進路指導部と連携し模試の結果を各校比較と経年比較の度数分布にし、また教科担当者から改善策を記した模試分析を行う。進路ノート(仮称)を各自に準備させ、進路実現のために調べたことや模試の結果の振り返り、面接での助言などをメモさせていく。	
1学年	23	①	部活動を通して充実した高校生活の基盤づくりを行う。	4月末時点で100%の部活動加入率を年度末で90%まで持続させる。年度末のアンケートで、積極的な部活動への参加80%以上を目指す。	2月に実施したアンケートでは、部活動加入率は88.9%、「毎日積極的に部活動に参加している」と答えた生徒は77.8%だった。	A	3.3	○部活動での様子は顧問だけでなく、担任や学年も知っておく必要あり情報交換が大変。○部活を顧問がしっかりと見ないとう職員が辞めていく。○2学期以降退部する生徒が目立つように思う。	来年度は先輩として部活動をリードする責任も加わるので、今後も部活動顧問と連携を図って生徒情報を共有し、積極的に取り組めるよう指導・助言していく。	
	24	②	基本的学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	家庭学習や考前学習を充実させ、生徒の平日の家庭学習時間平均60分を目指す。模試成績で偏差値50以上の生徒が各教科10人以上を達成する。	6月に総務部により実施された生活実態調査では平日まったく学習しない生徒は18%、60分以上学習する生徒は56%、2月実施のアンケートでは平日まったく学習しない生徒は20.5%、60分以上学習する生徒は40.2%だった。2月実施のアンケートでは平日の家庭学習時間平均は45分、休日は平均70分だった。7月実施の進研模試では偏差値50以上の生徒は国語20人、数学6人、英語6人、11月実施の進研模試では国語9人、数学8人、英語9人だった。	B	3.0	○到達目標を明確に定め、教師の積極的な動きやしつこさで生徒を粘り強く引っ張っていく。○平日の家庭学習時間の確保は学年だけでなく全職員における課題である。学年、教科で具体的な指導を提案していく必要がある。○偏差値50以上の生徒は10人といわずもっと増やしていきたい。生徒以前にまず職員の意識を変える必要がある。○学習習慣定着に向けて教科担当者も含めて全員で取り組むと、もう少し意識が変わるのではないか。▲携帯の時間が長すぎるので有効な指導が必要。▲宿題を増やしそれをこなすには最低60分はかかるようにする。	教科担当者とも連携し、小テストの実施や、課題の内容や量について検討していく。	・良い取り組みだと思います。 ・一年間の反省に立って進級して欲しい。 ・文理探究での講演楽しかったです。みんなの目が輝いてよく話を聞いていただきました。感謝です。 ・評価も高いのでさほど心配になるようなことは少ないと思います。学習する時間と部活動やアルバイトを両立してこそ生活にハリが生まれ、たくましい生徒が育つのではないかと感じます。
	25	①②	3類型の特性をよく理解させ、適切な類型選択をさせる。文理探究類型の発展を目指す。	2年次からの類型選択に関して、説明会や個人面談などを通じ類型の特徴を理解させる。決定後にアンケートをとり、80%以上の生徒が満足できる類型選択をさせる。文理探究Ⅰの授業満足度8割を目指す。	10月末に類型選択希望本調査を取り、2学期保護者会で類型と選択教科を確定させた。2月のアンケートによると、「類型選択に満足している」と答えた生徒は93.8%だった。教務部による第2回授業評価アンケートでは文理探究Ⅰについて「大変満足」「満足」と答えた生徒は98%だった。	A	3.5	○課題を出させるのに重点を置くのではなく、きちんと仕上げる習慣を付けさせるべき。	進路実現に向けた類型であるので、4月には再度類型の特性を確認、理解させて日々の授業を受けさせるのと共に、面談等で進路意識も高めさせていきたい。	
26	③	ルールを守って落ち着いた学校生活を送らせ、いじめのない安心安全な集団作りを努める。	入学してよかったと満足している生徒が80%を超える。いじめのアンケート後、個人面談を行い即時に対応する。イエローカード指導で5枚以上になる生徒0を目指す。	総務部6月の調査で、「出石高校の生活に満足」と「まあ満足」の割合は79.8%。7月の生徒アンケートでは「入学してよかったと思う」と「どちらかといえばそう思う」は合計92.4%、保護者アンケートでは「入学させてよかったと思う」と「どちらかといえばそう思う」は合計96.0%であった。学期末に実施されたいじめアンケートで気になる回答があったクラスでは、生徒指導部長から話をしてもらう等の取り組みを行い、大きな問題にはなっていない。2月のアンケートで「ルールを守って生活している」と答えた生徒は90.1%で、イエローカード5枚の生徒はない。	A	3.4	○イエローカードの数が少なく落ち着いた学校生活が過ごせていたように思う。その結果24のように学力面でも比較的高い結果が出ているように感じる。○落ち着いた学校生活を送る取り組みが行われている。○落ち着いた学習・生活できる学年であると感じるので、今後も学校全体で見守って指導していければと思う。○この調子で来年も落ち着いた学校生活を送れるように協力したい。○イエローカードの枚数は少ないが、これに油断せず、ルールを守る意識を育てていきたい。○全体的に大人しいので授業はやりやすくありがたいが、やや元気に欠けるかも。○大きな問題がないように思われるが、活気がなく自己主張も難しいような生徒もある程度いると思われるので、2年間でそのような力を付けさせる必要がある。	今後もルールを守らせる指導を継続していく。教科担当者や養護教諭とも連絡を密にし、生徒の様子を把握・共有して、指導しあたる。		
事務部	27	①	生徒の活気ある活動を支援するために「出石高等学校応援寄付金」に取り組み。	目標額の早期達成のためにPTA、同窓会、職員に協力を呼びかける。 ①地域を学ぶ学習活動応援事業の目標金額50万円 ②クラブ活動応援事業目標金額50万円	PTA、同窓会、職員その他関係者の協力により、目標額を達成した。費用の配分を行ない各事業を実施した。事業開始初年で手探り部分が多数あったが、来年度以降も同様に事業を継続しつつ事業内容の見直しを行い事業をさらに充実させる必要がある。	A	3.6	○多くの募金ご協力によって学校活動が助けられていると痛感した。○毎年寄付に頼るのは大変だと思います。○生徒のため常に尽力していただいた。△寄付金に事務が尽力してくれたおかげで、様々な環境整備ができてよかった。110周年記念事業も寄付金の項目に入れ、支援をしやすくしたい。	初めての取組みで、手探りの部分が少々あった。2年目と目言うことで関係者の意見を取り入れながら継続して実施する。	・空調設備は必ず必要。6月中旬に設置をして欲しい ・耐震工事がスムーズに推移できていることは、本当に良かったと思う。 ・耐震工事に伴い事務も大変だったと思います。 ・募金、今後も続けられたらと思います。 ・H28年度は募金や語学研修の復活など事務局も大変な一年だったと思います。そんな中でもしっかりと対応していただきました。これからもよろしくお願いたします。
	28	③	安全に配慮した整備を推進し、さらに時代にあった学習環境の整備も計画的に進める。	危険箇所があれば、すぐに修理などを実施する。普通教室に冷房を設置するなどの時代にあった学習環境の整備を推進する。	危険箇所の整備は、要請に応じて実施。耐震工事の完了後の普通教室の空調整備は、引き続き県教委と調整中。	B	3.2	○温度計、湿度計をすべての部屋に置く。△普通教室に合わせて特別教室も空調設備の整備を進めてほしい。△エアコン等空調設備は優先させてほしい。夏季の熱中症が危惧される。工事後、中庭テニスコートの修理をしてほしい。△暑さ寒さで体調不良には学習に支障が出るが、空調になると生徒が無断使用しないか徹底が必要。△中学校までは充実した環境で授業を受けることができたが、高校では空調のあるなど大きな不平等が生じているため、解消に向け努力を継続して欲しい。▲空調設備だけでなくICT教育にもあう整備を普通教室にしてほしい。▲シュレッダーやプリンターなど機器の不調が著しく業務に支障が出る場合もある。節約に協力するのは賛成だが、必要な物品については費用を投入してほしい。	平成29年度に普通教室(8教室)の空調設備の整備は県教委で決定されている。早期に整備が進むように県教委への働きかけを継続する。プリンターなどの機器の不具合は、使用方法にも課題があるとおもわれるので故障の少ない使用方法の周知を行ない工夫します。教育環境の充実については、関係者の意見を聞く機会を設けます。	
	29	③	学校耐震化工事の実施に伴い安全に配慮し、工事を計画的に進める。	耐震化工事の期間中は、生徒の安全を第一に考え、教育環境への影響を出来る限り抑えられるように関係職員などと連携して工事を進める。	第1期耐震工事の始まった当初は、建物解体の音が授業に影響したが、第1期の工事は、12月に終了し、引越も特に問題なく完了した。引き続き第2期の工事が3月から実施されるが、授業等の活動への影響が少なくなるように調整をしていく。第2期工事：3月から9月 仮設校舎の撤去：10月から11月	A	3.5	○仮設校舎での生活をスムーズに送ることができた。○引越越し作業ご苦労様でした。 ○耐震工事前準備がわかりやすかったと思います。	耐震工事の完了(平成29年9月)と仮設校舎の撤去(平成29年11月)するまで間に出来るだけ授業などの活動に影響が少なくなるように関係者への情報提供などを行い調整する。○耐震工事がスムーズに推移できていることは、本当に良かったと思う。	

学校評議員からのご意見(全体について) ○全体的に見てよい取り組みをされていると感じました。特に研究体験発表会は素晴らしい取り組みだと感じました。要望があるとすれば、地域とのコミュニケーション、郷土愛を育てるような活動をもう少し増やして頂けたらと思います。人口減少・高齢化の問題は出石にも重くのしかかっています。地域に根ざした学校としてUターンしてくれる若者を増加させてくれるような取組みを期待しております。地域の様々な団体も全力で協力させていただきます。引き続きPDCAしながら、良い学校づくりをお願いいたします。こちらからもご無理を言わせて頂く事があろうかと思いますが、その時はご協力のほど宜しくお願いいたします。○生徒数の減少により来年度の1年生は2クラスになるとのこと。地域に住んでいる皆さんも含め、とても心配しています。是非とも出石高校の末永い存続を願っております。課題である学力向上により教職員の方に努めて頂きたい。一方、みんな部活動に入学しようという活動は素晴らしいと思いい、今後もしっかり進んでほしい。先生方の生徒たちへの愛情が評議をしている我々にも伝わります。引き続き子供たちのため、大変なこととおもいますが、よろしくお願いたします。○各項目の評価はできませんでしたが、全体的には良くがんばっておられると思います。今後ともがんばってください。○社協の事業である障がい者居場所作り(ほっとサロン)等に多くのお出石高校生がボランティアとして参加してくれました。実際に知的障がい者の方との関わりの中で、福祉の仕事に目覚めた生徒もいたようである。行事の中で司会を務めてくれたり、オリジナルグッズなどを披露することにより、自信もついたよう見えた。高校生らしく爽やかな対応は、清く正しく来ました。今後ともたくさんのボランティア活動に参加することにより、人としての成長や福祉分野を目指す学生が出てくれることを期待します。○各項目について、検討された対策も考えられていると思います。対策をどうやって実施し、成果を出すか大変だと思いますが実行していただきたい。生徒の学習意欲をいかに出して、成績向上になるのか先生方の頑張りにも期待します。アクティブラーニングについての取り組みはなされているのでしょうか。もうすでに取り組んでいるのでしょうか。○研究体験発表会に保護者が見に行ける日程にできないでしょうか。大変良い発表会だったから。心の教育をお願いしたい。

